

とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都文京区本郷 3-21-12
園名	I&C キッズスクール

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「音」とあそぶ

<テーマの設定理由>



> ①テーマを決める

I&C キッズスクールでは開園当初から音楽活動を活動に積極的に取り入れてきた風土があり、リトミック発表会、ピアノ、ヴァイオリンなどの個人レッスンを受講している子どもたちも多い。音楽活動に親しみ、表現する時に子どもたちが見せる満足そうな表情から、音や音楽がもつ可能性や、人間が本能的に感じる「なにか」を探ってみたいと思い、「音」とあそぶというテーマを設定する。

子どもが音をどのようにとらえているのか、各年齢によってどのように感じるのかを探索・探究し、環境や援助の仕方を検討していく。

> ②問いを考える

身近に聞く音や、言葉以外での音を聞くことから始め、「何の音?」「どんなふうに感じる?」という子どもたちの疑問から問いを考える。

> ③環境をデザインする

身近な廃材を持ちより楽器作りを行う事から始まり、「振る」「こする」「たたく」など様々な動作を加えて音を出すことを体験する。

また、音楽指導の講師に協力してもらいどんな音が出るかを想像しながら「みたこともない楽器」に触れる経験をする。

自分一人が出した音と、友だちが出す音が交わり、一緒に音を出した時に「感じる気持ち」を体験する。

> ④探究活動を実践し、記録する

各年齢の子どもたちが「音」あそびを通して活動する様子を記録する。

3・4・5歳児クラスでは子どもたちの興味の方向により、科学的なあそびへと展開し記録する。

> ⑤振り返る・共有する

職員同士で活動の共有を行うとともに保護者会でも実践の報告を行う。

2. 活動スケジュール

2025年5月～9月

・プログラムテーマの検討、発展テーマの予想、ドラム講師との打ち合わせ、共通理解

10月～2月

・「音」をめぐる多様な活動実践の展開

・「音」をめぐる活動実践から見えてきた子どもたちの様子について職員同士、担当講師で共有を行うとともに、今後の課題と方向性について検討する。

3月

・「音」からつながるコミュニケーション、表現遊びへと展開する。

・次年度につなぐこと、新しく始めるテーマについて検討する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

■ 楽器をつくるために集めた廃材・道具

・空き箱、ビーズ、輪ゴム、空き缶

■ 音の不思議・科学実験

・紙コップ、タコ糸、モール

■ 音から想像する色と形

・絵の具、半紙

■ 楽器の国へようこそ

・さまざまな国の楽器、絵本、モバイルカメラディスプレイ、書画カメラ

■ ドラムサークル活動

・ドラム キッズジャンベ、トゥボロ

・ドラムサークル講師 法島太郎

■ 保護者への発信

・園だより、保護者会での活動紹介、ホームページでの発信

4. 探究活動の実践

➤ <活動の内容> 4-1 (全園児)

ねらい 「集中して音を聞く、身近なもので音を出してあそぶ」

テーマの設定：こどもたちが日ごろから口にする「なんのおと？」をテーマに活動を行う。

活動を通して願う事：

- ・集中して意識的に音を聞いたり、自分の経験と結び付けて考えること。
- ・身近な材料で工夫して音が出るオリジナル楽器を作り、自分の楽器の音を聞いたり、友だちの楽器の音を聞き、おもしろがること。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 自然物の音や身近な音を聴いて「音当てクイズ」を楽しむ。「聞いたことがあるけど思い出せない」「〇〇の音に似てる、」など自分の経験とすり合わせてかんがえていることが伝わってきた。
- 家庭から持ってきた材料を見せ合いながら「どうやったら音が出そうかな？」と問いを出し、工夫して楽器作りを行う。
- ビーズを空き箱に入れてゆっくりゆらし、「さらさら」いうよ、と音を表現する。(3歳児)
- (輪ゴムの貼り方で)「音がちがうね。高い音と低い音」と気がつく。(5歳児)
- 保育者と一緒にビーズをいれて音を確認する。音が鳴ると保育者の顔をみて笑顔をみせる。(1歳児)
- 自分で作った楽器を使って発表する場面では自分で作ったという喜びが感じられ、誇らしげに音を鳴らす姿がみられた。
- 身近なものや廃材からでも「こどもたちが工夫して作り出すこと」で遊びが広がるということが感じられた。



➤ <活動の内容> 4-2 (3-5歳児)

ねらい 「音から想像する色と形」

テーマの設定：子どもたちは音をどのように「感じて」いるのかを確認するとともに「表現する力」を伸ばす。

活動を通して願う事：

- ・ 音を聞いて自分の感じたイメージを色や形で自由に表現する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 子どもたちとイメージの異なるいくつかの曲を聴き、「どんな感じがするか」を言葉で話し合う。「かっこいい曲！」など率直な感想もある。
- 色紙（寒色・暖色）を出して曲から感じた色紙を選んでいく。（色に関してのヒントとして、色には暖かい色、寒い色があることを説明する。）
- 子どもたちの好きな歌「ありがとうの花」を聴き、和紙に自分のイメージする色をしみこませて作品を作る。
- 曲を聴いたときの感想で「あったかい感じがする」と言って暖色を選ぶ子もいれば、グリーンなどの落ち着いた色を選ぶ子もいておもしろい。「言葉」に出してから表現することでイメージが明確になる様子も見られた。
- 色と音楽は子どもでも自由に表現することができる題材であり、どんどん表現することで「感性」が磨かれていくのではないかと感じた。



➤ <活動の内容> 4-3 (3-5歳児)

ねらい 「糸電話を作ってみよう」

テーマの設定：科学的なテーマに興味を持つ子供たちが多いため、音のふしぎを感じられる身近な題材を選ぶ。

活動を通して願う事：

- ・声（音）が伝わることの不思議とおもしろさを味わう。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 「糸電話って何だろう」と子どもたちに問いかけ、実際に作り出すところから始める。「こんな紙コップで電話になるの？」という子どもたちの疑問の声が上がる。
- 実際に糸電話を作って、たるませずに会話をするのが難しかったが、上手くいったときには「あ、今聞こえた」と純粹に喜びあう姿が見られた。
- 音の振動については保育者から説明を加えるが、「理解する」とうことでなく「友達と電話がつながった」という体験が子どもたちの中に興味の種をまいたように感じる。



➤ <活動の内容> 4-4 (3-5歳児)

ねらい 「音をみてみよう」

テーマの設定：幼児でも目で見てわかりやすい題材だと感じるため。

活動を通して願う事：

- ・自分の手を動かして工夫をしながら「音のふしぎ」について考えてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

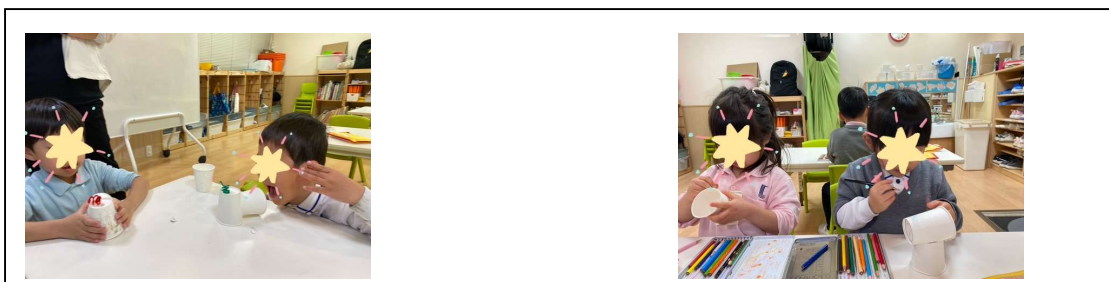
・子どもたちから「音」は聞こえるものなのに「どうやって見るの？」という質問が飛び出す。まさに狙い通りの問いが上がる。

・モールドで作ったへびを紙コップの上に乗せ、筒を通して大きな声を出すとコップの上のへびがくるくると動き出す。理由は分からないが「とにかく、おもしろい！」と盛り上がる子どもたち。

・自分で動かすのも友だちが動かうのを見るのも、一緒に声を出すのも楽しい様子。今回も補足的に「音の振動」について説明を加えたが、何より「おもしろい」ことや「不思議なこと」が大好きな子どもたちのツボにささった様子。

・今は理解が難しいことも、時期が来た時に「あんなことやったなあ」「おもしろかったなあ」として記憶の片隅に残り、将来自ら考え、実践する力になってくれればうれしい。

・予測を持ち、環境を準備して活動を行うが、実験のゴールは子どもたち自身が見つけていくのだと改めて実感する。



➤ <活動の内容> 4 - 5 (3 - 5 歳児)

ねらい 「世界の音を聞いてみよう」

テーマの設定：普段使う楽器以外にも世界には様々な音がある事を知る。

活動を通して願う事：

- ・子どもたちの知っている世界を広げる。音遊びを楽しむ。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・雅楽や民族楽器などの演奏を聴いて、「どんなふう感じたか」感想を言い合う。外国育ちのお子さんでも雅楽を聴き「きれいな曲！」という感想を言ってくれる場面もあった。

・ドラム活動の講師に協力してもらい「世界の様々な楽器」を貸してもらい、実際に触れて音を楽しむことが出来た。

・子どもに関わる大人が話し合いを重ね、「美しいもの」「感じて欲しいもの」など、子どものための環境や活動の実践を行っていくことの重要性を感じる。



➤ <活動の内容> 4-6 (3-5歳児)

ねらい 「絵本」に合わせたリズム遊びと「輪唱」

テーマの設定：絵本からイメージしてリズムで表現する力を養う。他者の声を聞く歌あそび活動を通して願う事：

・自分の感じたことをリズムで表現する。友だちの声を合わせたり、合わせたりすることの喜びを味わう。

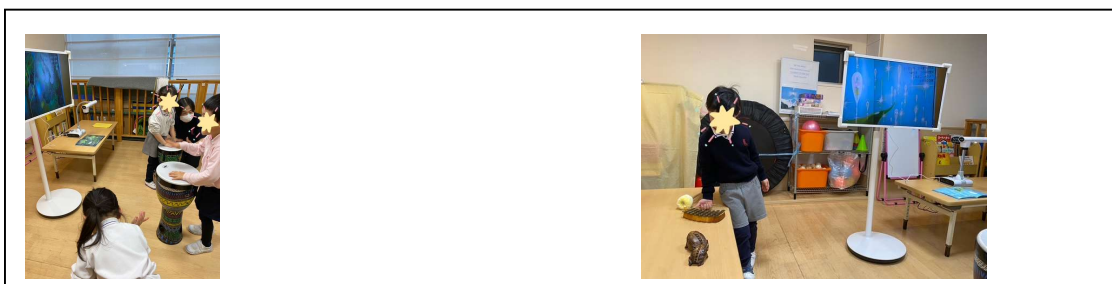
<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・絵本に合わせたリズム遊びでは「空の絵本」(作：長田弘 絵：荒井良二)の美しい文と絵を映写機の大きな画面で読み聞かせを行い、「雨」「雷」「雨つぶ」「星」などをドラムのリズムで表現した。

・ドラムサークルという活動を年間通して行ってきたため、リズムで表現することがとても上手に出来ていた。友だちの表現を聞いて「雨の音だ!」と感想を言ったり、自ら拍手を行う姿も見られた。自分の表現だけでなく、他者の表現も認めるという姿勢が見られたことが嬉しかった。

・輪唱では「かえるのうた」を選び、シンプルにアカペラでの合唱を行ったが、普段の「歌う」という活動では味わえない喜びが感じられた様子だった。こどもたちの方から「もう一回歌おう」とリクエストが入り、来年度は「輪唱」や「合唱」などの活動にも積極的に取り組んで行きたいと感じた。

・絵本から「音へ表現する」という活動は実験的なもので、どのようなゴールにたどり着くか不安もあった。しかし、この活動を通じて得たものは「子どもたちは最初から表現する力を持っている」ということ。表現する方法を遊びや活動を通してたくさん経験させてあげたい。



➤ <活動の内容> 4-6 (1~5歳児 8月~3月)

ねらい ドラムサークルを楽しもう

テーマの設定：太鼓の音で音楽を楽しむとともに、友だちや先生と音遊びを通してつながる。

活動を通して願う事：

- ・音遊びを純粋に楽しむ。自ら積極的に参加する。
- ・相手の音を聞き、自分の音で表現する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ドラムリーダー（法島太郎先生）が明るく、積極的に子どもたちをリズムの世界に誘い、子どもたちの「笑顔」と「やりたい気持ち」を引き出してくれた。
- ・合同での活動が苦手な子どもたちも、次第に「やりたい」という表情を見せ、一部参加する姿が見られた。
- ・講師のリズムをまねる。自分の音で答える。リズムに合わせて全身を使って踊る、跳ぶ。などの活動が、子どもたちを次第に「自由に」「ダイナミックに」変化させる様子が気持ち良い。参加する側も、見守る側も一体となれる空間がある。
- ・太鼓の音は「プリミティブな力強さを秘めて」おり、本能的に駆り立てられる魅力を持っている。
- ・正解があったり、勝ち負けが決まってしまう活動も多い中で、「自由に表現する」「他者とつながる」ことができるドラムサークルに、音楽としての活動だけでなく「今を生きる子どもたちのコミュニケーション活動」としての期待を寄せている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 「音」となにか？大人でも正しく定義することは難しいように思う。よく使う言葉であるのにあいまいで、広範囲の意味を持っているからだ。今回「音」をテーマに子どもたちと様々な活動の実践を行う中でみてきたことは「音」はただの音ではない。音楽＝音という説明でも足りない、ということだ。
- 音の本質は「感情」や「表現」、さらには「他者とのつながりたい」という人間が本能的に持った命の欲求、群れの社会性にも深く根差しているということのように感じられる。
- 子どもたちは教えられなくても明るい音楽で飛び跳ね、美しい音楽をじっと聴く。方法を教えてあげれば、言葉以外のやり方で感動を表現することができる。
- 1歳のこども（0歳児でも）でも音に反応し、リズム遊びを楽しむことができる。
- 「音」であそぼう、で始まった活動は、だんだんと「音」でつながろう、「音」で表現しよう、という意味合いが強くなってきたように思う。
- 今回非常に強く確信したことの一つに、現在社会を生きる子どもたちの「苦手」とするコミュニケーション力向上に、「ドラムサークル」活動は非常に有効ということがあげられる。音楽活動であるにもかかわらず、正解だけじゃない！どんな表現も受け止める懐の広さがある。ぜひ多くの幼児施設で取り入れてはどうだろうか。
- 来年度への課題として 今年度もっと行ってみてみかけた合唱や輪唱、「色」遊びなどへの発展を考えている。